科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書

平成24年 6月1日現在

機関番号: 13601

研究種目:挑戦的萌芽研究 研究期間:2009~2011 課題番号:21653098

研究課題名(和文) 総合的な学習を指導する教師のコンピテンシー育成モデルの研究

研究課題名(英文) A study of workshop models for the teachers that facilitates

the competency of teaching the interdisciplinary learning

研究代表者

伏木 久始 (FUSEGI HISASHI) 信州大学・教育学部・教授 研究者番号:00362088

研究成果の概要(和文):小・中学校における総合的な学習を指導する教師に求められるコンピテンシーを国際的な視野で検討し、その育成モデルを開発するための基礎的研究を行った。デンマーク等でのPBL型演習をヒントに、日本国内でのカリキュラム開発ワークショップの実践を通して指導者養成の研修モデルを開発した。また総合的な学習を指導する教師のコンピテンシーの国際的共通尺度を作成するための国際比較Webアンケート・プログラムを開発した。

研究成果の概要(英文): I examined competency required for the teachers who instruct the project-based-learning in the elementary and junior high school in an international field of vision and performed a basic study to develop the upbringing model. I developed a training model of the teacher training through the practice of the curriculum development workshop in Japan for a hint by PBL type practice in Denmark. In addition, I developed an international comparison Web questionnaire program to make the international common standard of the competency of the teacher who instructed the project-based-learning.

交付決定額

(金額単位:円)

			(35 HX/ 1 132 - 1 4)
	直接経費	間接経費	合 計
2009年度	1, 400, 000	0	1, 400, 000
2010年度	1, 200, 000	0	1, 200, 000
2011年度	500, 000	150,000	650, 000
年度			
年度			
総計	3, 100, 000	150, 000	3, 250, 000

研究分野: 教育方法学

科研費の分科・細目: 教育学,教科教育学

キーワード: 総合的な学習,教師のコンピテンシー育成,ワークショップ型研修

1. 研究開始当初の背景

 修とされたにもかかわらず、様々とと 情から期待された実践が普及したとこう 言えないまま今日に至って関しては した実態と教員の意識に関しては助金 に筆者が平成18年度科学研究費補助金 基盤研究(C):総合的な学習の実施状況 と教師の実践意識に関する全国調査 (課題番号:18633011,研究代表出 伏木久始)において課題を実証的に らかにしているが,教師たちの声として,教員養成や教師教育において学際的な教材研究の機会やそれを体験的・探究的に学ぶ機会を十分に保障することの重要性が確認されている。

また、平成17年度~19年度科学研究 費補助金·基盤研究(B):総合的な学習 のカリキュラム開発・実践に関する国 際比較研究 (課題番号:17402045, 研 究代表者:伏木久始)において,諸外 国の総合学習の実践を取材し、日本の 総合学習の実践づくりに有益な実践映 像を紹介しつつ学校現場の総合学習を サポートする取り組みを続けてきた。 その海外調査の過程で, 北欧諸国の教 員養成において展開されているグルー プワークの手法がヒントとなり、総合 的な学習を指導する教員に求められる コンピテンシーは、協同で具体的なカ リキュラム開発に挑むワークショッ プ・モデルを導入することが有効だと 考え, 本研究プロジェクトが始まった。 2. 研究の目的

本研究の目的は、小・中学校における総合的な学習を指導する教師に求められるコンピテンシーを国際的な視野で検討し、その育成モデルをワークショップ研修のスタイルで構想することである。

「総合的な学習の時間」が学校の教 育課程に位置づけられてから10年が経 過した現在でも,多くの現場では学習 指導要領に掲げられた目標にかなう実 践を展開できているとは言えない実態 にある。その原因は様々に指摘できる が、指導者となる教師の意識変革によ って実践状況が改善される面も無視で きない。そこで、総合的な学習を指導 する教師に求められるコンピテンシー (ここでは「卓越した実践的指導力を 峻別する行動レベルの指標」という意 味で用いる)を整理した上で,校内研 修や教育委員会等が主催する研修講座 において, 指導者のコンピテンシーを 高めるための実践的・具体的な研修モ デルを開発することを目指して着手し た研究である。

なお、本研究は諸外国の総合的な学習の実践状況や各国の指導者に求められるコンピテンシーを相互比較して、国際的な視野で新時代の総合的な学習プログラムを構想していく研究プロジェクトを起ち上げるための準備段階に位置づく基礎的研究である。

3. 研究の方法

(1) 先行研究の整理

総合的な学習の実施状況と教師の実 践意識に関する先行研究や,教師の と対して と対して での教師へのインタビ習で に 国内での教で、総合的な学習を などを などを教師に必要な力量等を整理する。 (2)諸外国の総合的な現地取材 授業の指導者育成方法の現地取材

教師養成段階でPBL (Project-Ba sed-Learnig)をカリキュラムに取り入れているデンマークの教師養成校の取り組みを継続取材するとともに、オランダの教師養成機関 (PABO) への取材をもとに、指導者を養成するための教育方法の情報を収集する。

(3)総合的な学習の指導者養成のためのワークショップの試行実践

小中学校の教師対象の研修講座また は教職志望の学生向けの授業において 総合的な学習のカリキュラム開発を ーゲットにしたワークショップ型研修 を実践しつつ、その演習方法の改を 重ねながらワークショップの内容・ 法を磨き上げる。

(4) 国際比較調査のためのデジタル版(Webでの質問シート) 質問紙の作成

4. 研究成果

(1) 主な成果

①「総合的な学習の時間」に対する指 導者の意識格差の実態の解明

 よりも学年単位で取り組み,テーマを 固定化してコアル化した指導を繰り返す傾向が顕著に表れた。なかには 「総合的な学習の時間」を受験対策の 講座や単なる行事の準備等に充てるな ど,学習指導要領の主旨に整合しない 実態も散見された。

また、児童・生徒と未知なることを 探究する活動に意欲的に取り組む教員 が存在する一方で、同僚が作成したわ ログラムに依存し、主体的に取り組む ことが少ない教員、もしくは総合的が 学習への理解が不足している教員が なくない実態が明らかになった。

教師の資質・能力という言葉を使わ ず、「卓越した実践的指導力を味別「 動した実践的指導力を味で「動レベルの指標」という意味で「 ンピテンシー」という概念を持ち込み、 企業での人材開発や専門職のな話発 にかかわる先行研究をふまえながら、 今後の教師に求められる力量等に て整理し、その成果を日本カリ ム学会等で発表した。

③海外の総合的な学習に関わる指導者 養成プラグラムの有効性の確認

教職課程の学生を対象とした演習において、総合的な学習のテーマ設定からカリキュラムづくりの実践的なワークショップ型グループ演習の指導モデルを開発した。テーマ設定の手法から始まり、ウェビングやKJ法による学

演習モデルの開発

習項目の構造化を図り,時系列に整理したり,具体的な活動を位置づけたをでする演習を通して,グループワーロセス 基調としたカリキュラム開発プロロセイショップをデザインとた。そのモデルを専門科目である「教育方法学・総合学習概論」のシラバスに導入し,その有効性を授業を通した。検証した。

⑤現職教師対象のワークショップ型研 修モデルの開発

現職教員の研修講座の指導者を依頼 されるごとに、本研究でデザインした カリキュラム開発モデルを実践し,参 加者の教師たちからの授業評価をふま えつつ, 部分修正を繰り返しながら, ワークショップ型の研修モデルを開発 した。総合的な学習のカリキュラム開 発等は、それぞれの地域や学校の諸事 情,子どもの学習活動の履歴や興味・ 関心の実態等により様々なアイディア が要求されるが, カリキュラム開発の 方法論をワークショップ形式のモデル に具体化することはある程度可能であ る。本研究により、ワークショップそ のものは実践を通してスタイルを変え ながらも,教師の研修機会として共通 に強調されるべきことと個別具体的な 状況に応じて臨機応変に対処すべきこ とを区別しながら研修モデルを開発す ることができた。

⑥総合的な学習の実践に関する国際比 較調査のデジタルシート作成

諸外国の総合的な学習に関するイン習 タビュー調査を通して、総合的かート で実践に関するデジタル調査シート国 推備することができた。既に済みを日本 の教員向けに2006年度に実施済を見れ たアンケート調査シートの内容を見れ し、質問項目を厳選した上でデジタル 処理可能な質問紙に改良作成した。

外国語版は英語,中国語,フィンラスイ語語、中国語,フィグ語表で、カランが語話を表現の研究を含めて、カッションを合いで、カッションを合いで、カッションを合いで、カッションを合いで、大力の学校教育のではいる。 学習の文脈の特徴で、大力のではいるで、では、大力の学校教育のではいるといるでは、大力のではないかいは、大力のではないかいかいかりではないないかりではないかりではないかりではないないかりではないかりではないかりではないかりではないかりではないかりではないかりではないかりではないかいかりではないかいかいかりではないかりで

参考資料として,以下に国際比較アンケートのトップ画面(図1)とフィンランド語語版のデジタル質問シート(図2)のイメージを添付する。

Please select your language

English version	The International Survey of Theme Based Project
Suomalanen versio	Teemaopetuksen kyselylomake
Dansk version	Den internationale undersogelse af tema-baseret projekt
Nederlandse versie	Vragenlijst thematische projecten
Chinese Version	关于《综合实践活动》的国际调查
Japanese version	総合的な学習の時間に関する国際比較調査

【図1 国際比較アンケートTOP画面】

Kyselystä		
käsittelevässä kansainvälisessä vertailevassa tuti maiden kouluissa. Tutkimuksen kohteena on op vastaamiseen. Jos lisäksi haluat tietää tutkimustu	sa, jaka taoiii professoriaa Shinchan yliopintossa (Appanissa), jak yoolya kaytettata teemaprojehiooppainta, innikeessa. Taikonkheena on sohtiita kainkin oppinimersäy yliitiintä sineyohtua oppiniita tuoteettassa kaytunksistä e elinginen innikenylistä niipiakan oppinimeta. Arvoita puota valta valta kaytu ja joka kaytut kyydysyi okatusa, oh ymintilisen ja hiiken minile valtakoponta ovoiteeseena liitoopia(jalkatus va at ja kesiiin ja painaa lopukssi "lähetä"-nappia.	
F1 Kansalaisms		
F2 Koulus nimi		
F3 Opettajakokemus	0 1. 1-3 vaosta 0 2. 4-10 vaosta 3 . 11-20 vuotta 0 4. encermania loin 20 vuotta	
F4 Milla kouluasteella olet pääasiassa opettami /Useat vaihtoehdot ovat mahdollisia)	a) Eskouda b) Perusopetuksen vuosikuokat 1-6 c) Perusopetuksen vuosikuokat 7-9 d) Lukio	
F5 Nykyinen asema tai ammattinimike (vapaamuotoinen vastaus)	ie i	
Osa 2. Teemaopetus koulussasi (kysymykset 1-6)	
Q1. Miten teemat yleensä päätetään koulussanne?	0.1. Teenat palitātā kanatas koulatoviranomaliens ja ne vout on a koulau opetusoraminēmas 0.2. Teenatus kezkuntellum ja opetujus palitātāt niitis jāskinā mils jāskinā valorita kezkuntellum ja opetujus palitātāt niitis jāskinā valorita valorita kezkuntellum palitātāt palitātāt niitis palitātāt palitātātāt palitātātātā kezkuntellum palitātātā palitātātātā palitātātātā palitātātātā kezkuntellum palitātātātātātātātātātātātātātātātātātātā	
Q2. Millat tavalla oppilaat jaetaan ryhmiin teemaopetusta varten? (If postabile, choose only one option what is most suitable for you)	El Oppiale halpidenset tremasportum kontalkenti. 21. Lockus cappital renar purlum ja jakolismo replant an poisettimidasen oman orbjion termanna 22. Koko kokata nosidatna jaita järenti teeman ylenkimisen jaitusti. 23. Koko kokata nosidatna jaita järenti teeman ylenkimisen järenti midaan 23. Kakki suoma voodukska oppiala nosidatnust sumaa teeman järenisidensi ylenkiid 25. Kakki suoma voodukska oppiala pitama mondi en ryhmini 26. Tavoohadiselle on järenti pitama mondi en ryhmini	

【図2 フィンランド語版シート】

(2) 得られた成果のインパクト

総合的な学習の実践状況が全国的な学習の実践状況が現場でで、現場では、教育では、教育では、教育では、教育では、教育では、教育では、ないののでは、ないないのでは、ないいのでは、ないのではないのでは、ないのではないのでは、ないのではないのではないのではないのではないではないのではないではないでは、ないのではないではないのではないではないではないのではないではないではないではないではないではないではないではないではないではな

(3) 今後の展望

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

「雑誌論文」(計11件)

- ① 伏木久始,フィンランドの教員養成の質を保証する要因,信州大学教育学部研究論集,査読有り,第4号,2011,25-38
- ②<u>伏木久始</u>,学習評価のあり方を再考する,信教ブックレット,査読なし, No.37,2011,1162-1163
- ③<u>伏木久始</u>, 学習集団を再考する, 信 教ブックレット, 査読なし, No. 36, 2 011, 1134-1135
- ④<u>伏木久始</u>,子どもたちが学ぶ環境を 再考する,信教ブックレット,査読な し,No.35,2011,1098-1099
- ⑤<u>伏木久始</u>, 学ぶ側からの目線で授業 を再考する, 信教ブックレット, 査読 なし, No. 34, 2011, 1068-1069
- ⑥<u>伏木久始</u>,協働的な学びの指導者を 養成するデンマークの教員養成,信州 大学教育学部研究論集,査読なし,第 3号,2010,115-126
- ⑦伏木久始,複式学級の教育効果を生かした教育実践の可能性-スウェーデンのヴィットラ・スクールの「個に応じた教育」を事例として-,個性化教育研究,査読有り,第2号,2010,14-23,
- ⑧ 伏木久始, 教員養成カリキュラムに

おける教職実践演習の位置づけ-信州大 学教育学部のコンセプト-, SYNAPSE, 査読なし, 創刊号, 2010, 26-31

- ⑨松本隆,<u>伏木久始</u>,和太鼓を材とした総合的な学習における生徒の探究のプロセス,教育実践研究,査読なし,第11号,2010,49-58
- ⑩阿部純・<u>伏木久始</u>,子どもが主体的に追究していくための教師の環境づくり-教師の日常に目を向けて-,信州大学教育学部/学部・附属共同研究報告書,査読なし,2010,60-68
- ⑪<u>伏木久始</u>,地域の学校での職場体験と大学での演習を連携させる授業の教育効果,日本教師教育学会年報,査読有り,第18集,2009,108-117

〔学会発表〕(計9件)

- ①中田正弘·坂田哲人·<u>伏木久始</u>·鞍 馬裕美,PROFESSIONAL GROWTH OF STU DENT TEACHER THROUGH LESSON STUDY AND REFLECTION, 40th Annual Congre ss of the Nordic Educational Resea rch, 2012.3.8, DPU, Copenhagen
- ②<u>伏木久始</u>,大学生がプロデュースする「総合演習」の実践-総合的な学習を指導する教員に求められる探究活動の経験-,日本生活科・総合的学習教育学会,2011.6.18,岐阜聖徳大学
- ③坂田哲人,中田正弘,<u>伏木久始</u>,Te acher Quality Assurance on Pre-Ser vice Teacher Education, 39th Annual Congress of the Nordic Education
- l Congress of the Nordic Education al Research, 2011.3.10, Jyvaskyla University, Finland
- ④<u>伏木久始</u>,教職の専門性を追求する 教員養成カリキュラムのデザイン,日 本カリキュラム学会第21回大会,2010. 7.4,佐賀大学
- ⑤伏木久始,大学生版「総合的な学習」の教育効果-学生提案型「総合演習」の3年間の実績評価から-,日本生活科・総合的学習教育学会,第19回大会,2010.6.26,(京都)立命館小学校

- ⑥伏木久始他7名,教職実践演習のカリキュラム開発プロセスと教職科目の単位の実質化,日本教育大学協会研究集会,2009.10.17,北野ホテルプラザ「六甲荘」(神戸)
- ⑦<u>伏木久始</u>・武田信子・坂田哲人,教職の専門性における教員のコンピテンシーを考える,日本教育方法学会第45回大会ラウンドテーブル,2009.9.27,香川大学
- ⑧伏木久始, デンマークの教員養成に おけるPBL型グループワークの試み 日本教育方法学会第45回大会, 2009. 9. 26, 香川大学
- ⑨伏木久始・島田希、人材育成におけるコンピテンシー研究をふまえた「教職実践演習」のカリキュラム開発プロセス、日本カリキュラム学会第20回大会、2009.7.11、神田外語大学(千葉)

[図書](計1件)

①<u>伏木久始</u>(編著),信州教育出版社,信州発・大学版「総合学習」の展開, 2012.3, pp.1-28/pp.175-177

〔その他〕 ホームページアドレス http://soar-rd.shinshu-u.ac.jp/

profile/ja.jhLeWhLe.html

6. 研究組織

(1)研究代表者

伏木 久始 (FUSEGI HISASHI) 信州大学・教育学部・教授 研究者番号: 00362088

(2)研究分担者 ()

研究者番号:

(3)連携研究者

研究者番号: